

# 2018年度 分野別計画進捗等報告書

体系番号  
02010204

## 1. 計画名称

縄文の里史跡整備・活用基本計画

## 2. 計画全体の進捗状況及び総合評価

進捗評価	おおむね順調	説明	縄文の里史跡整備・活用基本計画に基づき、縄文時代からの長い歴史と文化を大切に保護、調査研究し、また広く公開、活用している。そして4つの施設が特色を生かした事業を展開することで、市民をはじめ多くの皆さんに館へ足を運んでいただいている。
今後の重点化施策番号	4	説明	縄文の里史跡整備・活用基本計画がめざす茅野市のまちづくり・人づくりのため、社会教育施設等がさらなる連携を図り、縄文史跡をはじめ歴史的な遺産を保護、調査研究、整備し推進する。

## 3. 各施策等における評価内容と改革改善

区分	施策名称	進捗評価	総合評価		改革改善の具体的内容
			主な取組内容や成果	課題	
1	史跡保存された縄文遺跡の保護の充実	おおむね順調	尖石遺跡では、遺跡範囲確認調査の実施、総括報告書の作成、第2期史跡整備計画の策定、史跡整備有識者会議の開催等に取り組んだ。上之段遺跡では、平成20年度から継続中の詳細分布調査を小学校児童と共に実施した。縄文を意識したまちづくり・人づくりが着実に進んでいる。	遺跡の内容がおよそ把握され、史跡整備された尖石遺跡に対し、上之段遺跡と駒形遺跡は遺跡の内容に不明な点が多いため、直ちに整備に移行することができない。尖石遺跡の第2期史跡整備と並行して、上之段遺跡の詳細分布調査、駒形遺跡の試掘調査を進めなくてはならない。	これまで国指定史跡の整備・活用に関わる文化庁協議は個別に行われてきた。これからは「縄文の里史跡整備・活用基本計画」に位置づけた史跡の特性をいかした整備・活用の方法を探ると共に、「縄文の里」を意識した面的な整備・活用を視野に入れ協議を行なっていく。
2	埋蔵文化財保護の充実	やや遅れている	各種開発事業に伴う試掘調査(5件)、個人住宅等関連発掘調査(1件)、宅地造成に伴う発掘調査(1件)等を行ない、調査成果を発掘調査報告書(3冊)にまとめ公開した。また、遺物の保護(保存)と活用を図るため、収蔵資料の再整理作業と体験学習会を行った。	埋蔵文化財保護の充実を図るには、保護体制が十分でなくてはならない。保護率は100%であるが、民間開発事業に伴う発掘調査では、複数件の調査が同時に発生したため、速やかに調査が進まない事例もあった。早急に調査担当職員と作業員を確保し、体制を整える必要がある。	保護体制の整備について庁内協議を行なうと共に、市報やマスコミを通じて新たな作業員を確保する。
3	文化財保護の充実	おおむね順調	文化財審議委員会を3回開催し、「下菅沢の祖霊様」が天然記念物として新指定された。また諏訪信仰の継承に深く関わる神長官守矢邸を視察し、新指定文化財案件の可否の検討が始まった。指定文化財の日常的な保護経費の一部を4管理団体に、修理工事費の一部を1管理団体に交付した。	地域には、文化財としての価値や重要性が十分認識されていないものがあると思われ、地域と連携を図り、所在や内容等の情報収集に努めると共に調査を進め、積極的に指定を行っていかねばならない。また、指定文化財保護に係る一部経費補助制度の管理団体への周知も課題である。	区・自治会や地区公民館・分館の行事、地域の歴史に精通する地元住民と連携を図るなど、情報収集の仕組作りを検討する。指定文化財の管理団体へ補助制度の仕組や内容を文章で周知する。
4	文化財を学び、知る場の整備と充実	おおむね順調	各施設では、収蔵資料の特徴を最大限にいかした企画展をはじめ、子ども又は専門家向けの工夫を凝らした事業が行なわれた。市民研究員や市民ボランティアによる活動も活発に行なわれ、公民一体となった事業展開が定着しつつある。こうした取組により、各施設ともに概ね目標を達成した。	各施設は建築から20年以上経過し、老朽化が進む。地域の歴史資料等を保存し、活用するための施設として機能し続けるよう、必要な改修を計画的に行う。施設の特徴をいかした事業が活発に行なわれているが、施設の連携は十分とは言えず、歴史資産を体系的にいかすことができていない。	施設長寿命化に係る職員の意識を高め、不具合の早期発見に努める。各施設には八ヶ岳等の自然科学関連資料と、自然に抱かれ育まれた人文科学関連資料が収蔵されており、こうした資料を組み合わせた事業展開により、当地域の特徴や魅力の多面的な発信を検討したい。
5					

※5つ以上の場合は裏面へ

## 4. 関連市民団体等の主な意見及び対応のポイント

		主な意見	市の考えや対応など
関連市民団体等名称	市民研究員が、その肩書をいかした活動が行なえるよう支援してもらいたい。市民総学芸員化は時間がかかるため、小学生をターゲットに縄文検定を実施することがよい。中ッ原縄文公園の指標は、利用者数の実態を表す一般的な指標があれば変更することがよい。		例えば提案があった市民研究員の名刺を作るなど、今後の活動につながる支援を検討する。縄文検定に縄文かるたを取り入れ、小学生に受験を促す。利用者数の実態を表す一般的な指標を委員と検討する。
開催回数	1		
参加延べ人数	3		
関連市民団体等名称			
開催回数			
参加延べ人数			

## 5. 添付資料

別紙「施策評価シート」